

2025年3月31日

一般社団法人みかん箱
代表理事 佐々木 悟

北海道函館市における「子ども第三の居場所」 コミュニティモデルの運営（2年目） 活動報告書

【事業期間】

2024年4月1日から2025年3月31日まで（1年間）

【目的】

生き抜く力を育む「子ども第三の居場所」を開設・運営する。行政、NPO、市民、企業の方々と協力し、誰一人取り残さない地域子育てコミュニティをつくることで、「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を目指す。

【目標】

- 2025年3月31日までに1日平均利用児童数を15人にする。
- ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供。
- 子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に4回実施する。

【事業内容】

1. 北海道函館市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
 - 1) 期間:2024年4月1日～2025年3月31日(週5日、放課後から19時まで開所)
 - 2) 場所:北海道函館市
 - 3) 対象:15名(家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年を中心)
 - 4) 内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。

【事業実績】

- 2025年3月31日までに1日の平均利用者数を7人にした。
- ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供を行った。
- 子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベント「オープンみかん箱」を事業期間内に4回実施した。

【実績説明】

- ① 4月9日に中高生を対象とした「ベースキャンプ」を開講した。
- ② 次のとおりオープンみかん箱を行った。
 - 6月29日 「テストのない学校はどんなところ」 鬼沢真之
「合唱の楽しさを体験しよう」 武義和
 - 9月21日 「手作り本ワークショップ」 こがめいづる

- 12月8日 「ひのき屋 ソガ直人・ワタナベヒロシの演奏会」
 - 3月9日 「トークイベント」丸口弘之、阿部光平
- ③ 季刊「みかん箱通信」を3号発行し、会員やその保護者、公共施設等に配布し広報を行った。みかん箱通信の電子版をウェブサイトで公開した。
- ④ 「おひるごはんカフェtaom」により会員及びボランティアスタッフ等に対する軽食の提供を行った。会員がtaomの店長からおにぎりの作り方を教わる等の食育を行った。
- ⑤ 事業期間中10人の大学生ボランティアがスタッフとして参加した。
- ⑥ ウェブサイト、note、Instagramにて広報を行った。ウェブサイトにみかん箱通信のページのほか、「応援する」「寄付する」ページを新たに加えた。Instagramのフォロワー数は225人。投稿数は104件。
- ⑦ みかん箱を応援する「こたつ会員」の募集を開始した。
- ⑧ 次のとおりスタッフの研修等を行った。
- 11月23日 2名が自由の森学園中学校・高等学校「公開教育研究会2024」に参加した
 - 2月 2名が放課後児童支援員資格を取得した
- ⑨ 次のとおり視察等の受け入れを行った。
- 5月18日 みかん箱「キックオフイベント」に大泉潤函館市長、金子知史日本財団公益事業部子ども支援チームチームリーダー他御一行様
 - 11月11日 「なおみちカフェ」に鈴木直道北海道知事、大泉潤函館市長他御一行様
 - 12月13日 みかん箱「学びの探求塾」に大泉潤函館市長
 - 1月8日 厚沢部町地域コーディネーター、むかわ高校教育コーディネーター、厚真町教育魅力化支援員の3名様
- ⑩ メディア掲載
- 4月6日 北海道新聞みなみ風「小中高生もう一つの学び場」
 - 4月18日 函館コミュニティラジオ「FMいるか」出演
 - 5月29日 YouTube「函館西部地区ニュース」出演
 - 5月29日 北海道新聞みなみ風「子供の居場所 さらに工夫」
 - 5月31日 札幌テレビ放送「函館市民ニュース」出演
 - 11月12日 北海道新聞みなみ風「小中高生の居場所『みかん箱』を視察 鈴木知事」
 - 11月13日 北海道新聞みなみ風「『みかん箱』季刊誌 秋号 函館」
 - 12月6日 函館新聞「子どもの居場所づくり推進 末広町に『みかん箱』開設 8日にイベント」
 - 2月12日 函館新聞「西部地区の活性化を考える まちぐらし共創サロン」
- ⑪ その他の活動
- 学童クラブひのてんと楽器演奏、運動会、焼き芋・たこ焼き会等で協働した
 - はこだて国際民俗芸術祭に参加した
 - 大学生が自主的に運営する「わらじ荘」を見学した
 - 北海道国際交流センターの留学生と交流した
 - 地元の展覧会「世界に一冊だけの本展」に出品した
 - 世界を旅する「亀仙人」やヨットで国内を回る「よっぴー」、アフリカ文化に詳しい「カカとスカッチ」ほか多彩な経歴を持つ大人に体験談を語ってもらい会員が進路を考えるきっかけをつくった。

- 2月8日 函館市主催「第4回函館西部まちぐらし共創サロン」にみかん箱のマネージャーらがプレゼンターとして参加し事業の内容についてプレゼンを行った。
- 屋上広場「ボールパーク」及び相談室「スカイルーム」を有効に活用した。
- 函館市教育委員会に依頼し近隣の小学校3校にみかん箱「学びの探究塾」の会員募集チラシを配布してもらった。

【成果】

- 会員制の拠点として子どもの会員数を22人にすることができた。
- オープンみかん箱の参加者数が増加し、地域交流イベントとしての役割を果たすことができた。
- 様々な媒体（新聞、チラシ、Instagram、YouTube、ラジオ、口コミ等）で広報することができた。それにより会員に関する問い合わせや市内外からの視察等の受け入れにつながった。
- 会員と大人の出会いの場を設けることができた。それにより子どもたちに笑顔やチャレンジ精神が増える場面がみられた。
- 2026年3月31日までにさらに会員数を増やし、子どもの1日平均利用者数が15人になっていることを目指す。
- 2026年3月31日までに「おひるごはんカフェtaom」の運営を軌道に乗せ、会員、スタッフ、地域住民及び訪日観光客らとの交流の場になっていることを目指す。
- 2027年3月頃までに「みかん箱メソッド」が会員、保護者及び関係者に定着し、自己肯定感、人や社会と関わる力等、将来の自立に向けた力を身につけた子どもたちが巣立っていくと見込まれる。

【課題と対策案】

- 会員数及び子どもの1日平均利用者数が足りていないので、会員募集の方法を多様化すること。口コミ、SNS、関係機関からの紹介。近隣店舗や公共施設、小学校へのチラシ配布等。
- 非常勤スタッフ、ボランティアスタッフを安定的に確保する必要があるので、スタッフ募集の方法を多様化すること。大学のサークルや教育機関等への働きかけ。大学生と密接な関係をもつ他法人との連携の強化。ボランティア単位認定の取り付け等。来年度から北海道教育大学函館校の「地域プロジェクト」という授業を協働で行う予定。他の大学の関係者と定期的に連絡を取り合うこと。
- 「みかん箱メソッド」の評価が不十分なので、実践プログラムの企画開発や、評価方法の研究を行うこと。
- 自立に必要な収入を確保するため、寄付、協賛、法人会員を募集すること。地域で行われている既存のイベントで出店し事業収入を得ること。

資料

学びの探究塾



12月13日 大泉潤函館市長視察（左から2番目）





折り紙を折って、切り込みを入れて見本と同じ形を作る



一筆書きに挑戦

オープンみかん箱



「テストのない学校はどんなところ」 鬼沢真之



「ひのき屋 ソガ直人・ワタナベヒロシの演奏会」

スカイルーム



冬の花火を見るために待機



初参加の学生ボランティアに自己紹介やカードゲームで親交を深める

ベースキャンプ



「おひるごはんカフェtaom」の食育



屋上広場「ボールパーク」の活用

おひるごはんカフェtaom「はらごしらえ」「まかない」の例





新規会員募集

みかん箱 学びの 探求塾

<https://mikanbako.info/>

2024年度
冬期コース～

～小人数制で、楽しく子どもの学ぶ力を育みます。～



◆みかん箱「探求塾」の目指すもの

- ・学ぶ楽しさを実感する
- ・自ら学ぶ力やじっくりと考える力を身につける
- ・見る、聞く、話す、想像する等の学びの土台を作る

◆大事にしていることは

- ・季節に沿った生の教材に触れて五感を鍛える
- ・指先を使う
- ・数、重さ、長さ等の数量の実感をつかむ

私たちは、それぞれの子どもの才能とがんばりに注目し
自信を持つ子に成長できるよう願っています。



新しい世界に出会う！



生の素材に触れる！



遊びみたいな勉強、勉強みたいな遊び♪



●対象：小学生

●会費（3ヶ月まとめて）8,000～9,000円（税込）

※長期休み期間中はお休みになります。

●入会金：3,000円

（ひのてん・てんからとんころ・さんさんさん会員は免除）

●開講日時：月曜日～金曜日 17:00～（要相談）

週1回 学年に応じて40分～50分 5人以下のグループ学習

★講師スタッフ

いっちゃん・まるちゃん
りり・ゆい
めぐちゃん・ソガちゃん



探求塾を詳しく知りたい方は
こちらから→



○お申込み・お問合せ

一般社団法人みかん箱 TEL 0138-84-5762

函館市末広町 9-9 カルチャーセンター臥牛館

ベースキャンプ会員募集チラシ



詳細や日々の活動
はこちらから！



ホームページ



note



Instagram

人生を豊かにする『もう1つの学びの場』



〈対象〉 中高生 〈開講日〉 毎週火・水・木 〈時間〉 15～19時
〈過ごし方の例〉 15～16時半 自由時間

16時半～18時半 コアタイム

※その日集まったメンバーで1つのことに取り組みます

18時半～19時 振り返り・掃除・自由時間

会員は1階にあるおひるごはんカフェtaomから
はらこしらえが提供されます

〈会費〉

入会費：3,000円 年会費：24,000円（1ヶ月あたり2,000円）

※年会費は3ヶ月ごと6,000円を納めていただきます

現金ではなく、電子決済でのお支払いとなります。

途中入会につきましてはご相談ください。



／
入会について
／

お問い合わせや入会については、
下記の電話番号またはメールにてご連絡ください！



一般社団法人みかん箱
TEL : 0138-84-5762
E-mail : contact@mikanbako.info

〒040-0053
函館市末広町9-9
カルチャーセンター臥牛館

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

子ども
第三の
居場所

